

会 議 録

会議の名称	第 6 回那珂川市文化芸術推進審議会		
開催日時	令和 5 年 8 月 24 日(木) 19:00～21:30	開催場所	市役所 2 階 第 1・2 会議室
出席者	<p>1. 委員 長津委員、田北委員、須川委員、簗原委員、鳥部委員、森委員 関岡委員、柴田委員</p> <p>2. 執行機関(事務局) 吉岡文化振興課長、藏菌文化振興課文化振興担当係長、 神代文化振興課文化振興担当主査</p> <p>3. その他 株式会社地域計画建築研究所(コンサルタント) 3 名</p>		
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 ワークショップ企画案 ・資料2 那珂川市文化芸術推進計画(骨子案) ・資料3 那珂川市文化芸術推進計画(素案) ・資料4 今後のスケジュール 		
公開区分	開示 ・ 一部開示 ・ 非開示 (理由:情報公開条例第 9 条第 2 号に該当)		
<p>議題及び審議の内容</p> <p>1. 第 5 回審議会の振り返り (市文化振興課より説明)</p> <p>2. 調査報告 (1) ワークショップについて (市文化振興課より説明) 別添説明資料 1 のとおり</p> <p>【質疑応答】</p> <p>[会 長]: ワークショップについては、毎回の審議会でも議論をしている。こちらについて、ご意見のある人はお願いしたい。</p> <p>[委 員]: 質問は 3 点あり、1 つ目は計画 (案) の説明はどこまでの段階のものを示すのか。2 つ目は話し合うテーマは、それぞれの団体が抱えていることでよいのか。3 つ目は団体が抱えている課題の中から、共通するあるいは興味があるものをどのように抽出するのか。例えば、事務局が提出した計画の課題の中からなのか、あるいは、個々または団体が抱えている課題を出し合ってから抽出するのか。</p> <p>[事務局]: 計画は配布資料の骨子案である「(仮称) 那珂川市文化芸術推進計画の全体構成 (第 2 章～第 4 章)」を元にポイントを説明する想定である。</p> <p>[委 員]: 本日の議論で決まった内容を、あくまでも案ということを示すということか。</p>			

[事務局]：その通りである。テーマについては、個々または団体が抱えている課題の中から共通する話題をテーマとして設定できればと思っている。

[委員]：課題を出し合った後、課題についてどのように話し合うのか。

[事務局]：ワークショップ1回目は課題を出し合い、その中から共通するものをテーマとして設定する。2回目は課題の解決方法を話し合う。個人間で解決することができるもの、市が支援して解決するものなど様々あると思う。施策事業として行うことができるものがいくつか出ればよいと考えている。

[委員]：1回目、共通するテーマについて話し合うイメージとはどういうことか。

[事務局]：団体が抱えている課題について出し合うが、班内で出た興味のある、あるいは共通のテーマについて話し合ってもらおう。いくつか出てきた意見の中で分類分けが可能だと思う。同じ分類、共通のテーマに対して施策を話し合う。

[委員]：それぞれの団体が抱えている複数の課題を構造化するということか。構造化する作業を1回目ですということか。

[事務局]：その通りである。

[委員]：参加者数は20名程度か。

[事務局]：ヒアリングした先の団体には声をかける。すべての団体からの参加は難しいと思っているが、文化振興に興味のある20～30名程度の市民と考えている。

[委員]：2回両方参加してもらおう予定か。

[事務局]：その通りである。

[会長]：その他、如何か。

[委員]：参加者数の想定はどのように考えているのか。

[事務局]：20～30名の間で考えている。

[委員]：進行は誰が行うのか。

[事務局]：市とアルパックで行う。

[委員]：参加者から、ワークショップで出された意見をどのように活用したのかを示す方法は、どのように考えているのか。

[事務局]：参加者にはパブリックコメント前の計画書をお送りする予定である。

[委員]：参加者に、「ワークショップを行ったが意見が反映されていないので期待外れだった」と思われたいことが重要である。ミリカルリーダーの定期講座で集まっている26名にアナウンスすれば、多くの方が参加されると思うので、団体やその他の市民の方が多く参加してもらおうことを考えると、参加者数の想定はもう少し多めが良いだろう。

[委員]：1回目では、団体の課題というよりも、市の課題や要望の方がよいのではないか。

[委員]：委員の話と期待外れは密接である。1回目でテーマ設定し、深掘り、最終的に施策・事業に集約するとあるが、ギャップがあるのではないか。

課題と事業をどのように接続させるかが重要である。施策事業は市が何をするのかであり、課題を出すときも市のレベルで話す必要があるのではないか。

[委員]：ハード面かソフト面どちらで意見を出してもらいたいのか。市や環境に対する要望は多く出てくると思うが、個々人の課題が出てくると思うので、バラバラであり、どのようにまとめるのか。市の施策にどのようにつなげていくかは問題である。

[事務局]：ワークショップで話し合った内容を計画に反映した形にしたいと思っている。今頂いたご意見を踏まえて、計画に基づく、市全体の課題について考えてもらう内容にしていく。計画案の説明では、骨子を説明する予定である。参加者にわかりやすく説明するために、参加者に引き寄せて考えて頂けたらと思う。

[委員]：ワークショップで改めて課題と方針や理念の接続について議論することも考えられるが、新たな理念が話し合いで出てきてしまう可能性もある。個々の課題から事業や施策を考えることも必要であり、ワークショップの内容をもう少し丁寧に企画したほうがよいのではないか。

[委員]：ワークショップで使う課題の資料で、3頁は数が多いと思う。力点を置いた、どの部分の議論が必要なのか参加者にわかりやすい説明の仕方が重要と思う。第5章を説明してしまうと、個人的な要望が多く出てしまうのではないか。個人的には理念、方針についてのフィードバックをもらう機会としてはどうかと思う。

[会長]：その他方向性についてお気づきのことがあればお願いしたい。

[委員]：ワークショップの内容について分かりにくいと思っていた。文字のみの説明だと読む側の負担になるので、施策、事業を構造化された視覚的にわかりやすいものが欲しいと思った。

[会長]：ワークショップは次の審議会の前に2回行われる。説明の仕方や、内容についても一度皆さんの意見を踏まえて揉んで頂くが、基本的にはこの方向で進めるということによいか。

[委員]：よい。

[会長]：次回、結果についてご報告いただきたい。

3. 那珂川市文化芸術推進計画（素案）の検討

(1) 全体構成について

(2) 課題について（市文化振興課より説明）

別添説明資料3のとおり

【質疑応答】

[会長]：現在の説明について、何かご意見、ご質問があればお願いしたい。

[事務局]：1章、2章について内容は本日の資料のとおりとしたいが、誤字・脱字などは、後日、ご意見を頂きたい。本日は主に3章について、このよう

な課題の整理でよいかどうか、ご意見を頂きたい。

[委員]: 「1. 文化芸術の「内容」に関する課題」で、学校教育、高齢者・障がい者福祉、生涯学習との関係について文化芸術との関連の希薄さと書かれているが、取り組みがされていないのか。取り組まれているけれども認識されていないのか。希薄と感じている理由が何かあるのではないのか。

[事務局]: 実際に学校教育では文化芸術活動は取り組まれている。授業で科目はあり、福祉分野でもレクリエーションという形で関わられていると思う。しかし、文化芸術に関わっていることに生徒や福祉関係者が気づいていない可能性もある。今でも繋がりはあるが、まだ繋がりが欲しいという思いがあるのではないのか。

[委員]: 素案というのはどういう意味か。

[事務局]: 市民に見てもらおう最終的な計画の手前となるものである。

[委員]: 内容を読み取っていかないといけない。様々な分析されたことや抽象的な内容を読み解く必要がある。より視覚的に分かりやすくないか。1番言いたいことを大きく見せて、詳しい内容はその下に説明として入れる見せ方はどうか。

[事務局]: 素案及び計画書本編は、審議会で審議された内容をすべて盛り込む。完成後については、図など入れたわかりやすく手に取ってもらいやすい概要版を作成する。

[委員]: 環境に関して、ミリカローデンの1階の状況が良くなっている。長時間本を読んでいる人、勉強をしている人、ピアノを弾いている人が多くいる。多くの人々が身近に文化芸術に接する機会が増えた。市民が気づいていないことが理由で希薄という意見が出たのではないのか。ミリカローデンの改修で今後どうなるか。交通アクセスの課題をどのように改善していくか。

子ども達は茶道やダンスなどをよく知っている。ほとんどがユーチューブから情報を入手している。実際に触れてもらうという点として、若者が見る情報発信についてはもっと考えていかないといけない。

[委員]: 文化芸術は可能性を追うもの。那珂川が良い方向に向かっている中で、文化芸術を語る計画なので、語り方で文化芸術を限定してしまうと、その可能性をしぼめてしまう。

課題について大事な部分である。「1. 文化芸術の「内容」に関する課題」の「内容」という表現に違和感がある。文化芸術の①実践・観賞機会への満足度の低さは3. 文化芸術を実践・観賞する「環境」に関する課題に近いのではないのか。②市民の関心の低さと文化芸術と他分野との繋がり希薄さは、4. 文化芸術を知る「情報」に関する課題に近いのではないのか。文化芸術活動について具体的に押さえられていないのではないのか。後半部分は伝統工芸などの活動が入ってくる。

2章は文化活動の現状について書く章だが、市の動向についての記載

が少ない。国、県の動向、計画の整合性が記載されているが、次にすぐ市民認識調査に入っている。

那珂川市の特徴である文化施設の特徴、南畑の活動、福岡市に近いところに田園風景があるなど、市が客観的に描けることがあるのではないか。今まで、関わりが少なかった市民に関わってもらう時の主旨があるが、計画の語り口は市がこれから行うことという市の制度的な整合性で書かれている。文化芸術の創造性や可能性など市民の生き活きとした部分を書かれていない。そのような考えをもってワークショップを行い課題をあげてもらうことが一番必要なところだが、今は抜けている感じ。

ミリカローデンの内容も、文化芸術資源の課題が内容に入ってくると思う。ワークショップの中で語られる課題が接続するのではないか。大きく抜けている視点だと思う。

ミリカローデンでも市民文化祭、アートフェア、それは文化芸術の範疇だが抜けている。文化芸術資源の課題が内容に入ってくると思う。

[事務局]：3章の課題は、2章の動向的な所も含めて書いた方がよいということか。

[委員]：計画で課題が語られるのであれば、その根拠が載っているべきである。今のところ、計画の紹介とその整合性が掲載されているのみ。その後市民の意識調査が書かれている。那珂川市の文化芸術活動や資源について触れられていない。文化芸術の可能性や、他領域との接続を考えたときに、地域おこし関係など今は接続していないけれど今後このような資源があるので、接続の可能性があるのでではないかと書くことができる。具体的な活動を語ることで、今後の展開が期待できると書くべきではないか。

[会長]：他に如何か。

[委員]：同じく、2章に現状とあるが、どのようなことが行われているかが具体的に書かれていない。国の話から入っているのは違和感がある。国の動きによって那珂川市がこのような活動をするという考え方は逆ではないか。地方創生の動き、国や県の動きも必要だが、那珂川の文化をどうしていくかが構成上で見えた方がよい。

文章も多い。参考資料や脚注にするなど、本文でもボリュームを落とすとしてよい。那珂川の計画にとって大事な部分とそうでないところを、緩急は付けた方がよい。

3章の1は内容というよりも、広がりというべき。機会というよりも課題の置き方としては変えた方がよい。課題の内容が全体的にネガティブ。無理やり問題点を抽出しようとしている文になっている。もっと面白くなりそうな資源が多くあるなど。ポジティブな方向で課題の抽出ができないか。全体的に感じた。

ミリカローデンが改装中に行われたアンケートなので、現在は変化し

ている部分（ポジティブな内容）も含めて書くことがよいのではない
か。ビジョンがあった上での勢いが欲しい。

[事務局]：国、県の動きは資料的な扱いでもよいのか。

[委員]：1章に計画の位置づけという項目を設けて、一文入れるだけでよい
と思う。後半部分に細かな国の動きなどを追加することはどうか。障がい
者の話についても、那珂川の計画でそこまで位置づけるのかという話
がある。

[事務局]：「はじめに」の部分で総合計画と今回の計画の「位置づけ」ということ
で図示することはどうか。

[委員]：良い。国の動向と社会潮流は、第1章に持っていければよい。

[委員]：アンケートももう少しボリュームを減らす。センシティブな内容なの
で課題に子どもの有無は載せなくて良いのでは。

[委員]：課題で触れているところはアンケート調査結果に入れるとよい。

[委員]：活動自体は多く、色々なところで行われているが繋がりはない。繋がっ
ていく必要がある。その現状はきちんと書いてもらいたい。

ミリカルリーダーの講座で将来見てみたい風景をスケッチ画で書いて
もらった。このようになるかもしれないという感覚で繋がることが重
要であり、ロジカルではない部分がある。一定の想像力をもった話が必要
である。基本理念は少し抽象度が高いと思う。課題が解決した先にど
んなことがあるのか、一定のビジョンをみんなで考えることがあっても
よい。

[会長]：ビジョン、文化芸術の創造性にもつながる話だと思う。

(3) 基本理念・基本方針・推進体制について（市文化振興課より説明）

[事務局]：第4章は第3章をもとに整理している。構成、表現を中心にご意見を頂
ければと思う。

[委員]：那珂川の文化を誇れるものになれば良いと思っている。ワクワク感が
欲しいので、コンセプト的に理念が欲しい。どんな理念が掲げられてい
るかを読んだ時に、上の文章と図がリンクできていない。項目を読んだ
だけで何を行うのかわかる方がよい。

[委員]：22頁では、他者を理解するとあるが、他者は理解できないものではな
いか。市民が元気になることが豊かになるのか。図の中で、文化芸術を
実践することで市民が元気になるのか。

24頁の図は、3者のみが繋がっていて、その他は線で繋がっていない。
すべての団体を線で繋げることがよいのでは。

[事務局]：市、ミリカローデン、文化協会が中心であり、他の団体等がつながるこ
とで、膨らんでいく。図の形が広がっていくイメージでいた。

[委員]：24頁の表で、各主体の役割、例えば市民の「本市の文化芸術を学び、
継承していきます。」と市の計画が言うのか。違和感がある。この図も
市が中心である。各主体の動きが期待されるのであれば分かるが、やら

せようとしている。市がやるべきは、土台、プラットフォームを形成する役割。役割については、こうすべきというものではない。

22頁の図はどここの町でも、同じようなことが言えてしまう。那珂川らしさが、基本理念に表れていない。少なくとも文化に関わりのある人であれば、これが価値だと思うことのできる理念に育てていかないといけない。

[事務局]：他の計画では、市民等の役割を記載している市もある。その内容はワークショップなどで出た意見を反映していた。文化芸術の計画では書かない方がよいのか。

[委員]：期待されることくらいであれば良いのではないか。または、「～しましょう」という言い方でもよいのかと思う。

[委員]：他の計画では期待されるというニュアンスは含まれていると思う。

[委員]：市民がこうしますという言い方は、市から命令されている受け取り方をしてしまうのではないか。

文化協会について突然言葉が出てきた感がある。前段で特に何も役割で示されていない。

[事務局]：現状も含めて文化資源の内容など整理をしたい。役割について、市民について距離感を持っている現状がある中で、多くの方に関わってもらうためには、乱暴な表現と思うので見直したい。

[委員]：24頁は、図がなく文章を付加した方がよい。各主体と書いたもので、規定されたのだと思う。①と②は1つにしてはどうか。

[委員]：それぞれの主体の役割、プラットフォームの説明を加えてもらう方向で整理してもらう。

[委員]：市内に大学はないが、現在大学と連携している。周辺自治体の市民との関係人口が多い。基本方針でどのように入ってくるのか。人材は、職員と団体の育成があるが、職員は市民に入れてよいのかという話がある。市民が主体となるのであれば、人材には市民を入れることもできる。連携は、いきなり官民連携の話になるが、それ以外の連携もある、そこはどこに入るのか。価値の活用ではなく、一緒に創造していくことではないのか。他自治体との連携の話も含まれていない。可能性や創造性を考えたときに重要な部分が抜けている部分がある。

[会長]：他にご意見、ご質問はいかがか。無ければ、次の(4)に進みたい。

(4) 主な施策・事業について

[会長]：今の5章の説明について、ご意見、ご質問のある方はお願いしたい。

[委員]：5章の指摘ができるのは、本日までか。

[委員]：今出来ていることと、今後新しく取り組むことがすべて分かるとよい。「1. 機会の充実」の中に①現状と課題で鑑賞の話はあるが、施策・事業にない。所管課が違う部分の話はどうなるのか。27頁で、市民文化祭について具体的なやり方を含めた書き方が必要。

[事務局]：市民文化祭は実行委員会が実施する。

ワークショップでの意見もこの5章に繋がってくると思っている。ワークショップの内容も含める予定なので、まだ完成形ではない。

[委員]：教育系の所管など、細かい話ではあるが、各課に照会をかけて各所管事業を位置づけていく必要があるのではないか。

[事務局]：各課への照会を行った状況である。

[委員]：市民活動を支援するような施策は入っているのか。活動を続けられる支援があるとよい。

[事務局]：29頁が一応該当する。

[委員]：施策是那珂川市が取り組む内容が書かれている。頑張りたい人を応援するような仕組みがあるとよいのではないか。長期目線にはなるが、市民が主体になり応援するものがほしい。

[委員]：33頁のハード面について何か予定されていることがあるのか。

[事務局]：現在、計画ではない。大きなハードの改修は難しいと思うが、軽微な改造は続けていく必要はある。工夫しながら行っていく必要があり、記載した。

[委員]：そういう工夫のことがソフトではないか。無理に分ける必要はない。

[委員]：基本方針から落ちてきているので、少し言葉などに違和感がある。関係人口や那珂川市の魅力が基本方針に結びつき、基本理念になる。施設整備は基本方針なのか。施設ソフト面での整備とは、あまり聞かない表現である。例えば、ソフト面に書かれていることは、広報情報の集約、発信のところに書かれるべきだろう。何らかの意図をもって整理されているので、基本方針を吟味した方がよい。アウトリーチ活動について（1）（2）に分けて入れることができるのではないか。委員などにアドバイスをもらいながら行ってほしい。ここまで落ちてきた時に、改めて他の計画を見て見直してはどうか。

重複していないか、言葉遣いなど見直しは必要である。例えば、「社会包摂を意識した」ということはどういうことなのか。「実践者」という言葉も違和感がある。

[委員]：「自慢できる文化資源の活用」という言葉も使わない。

[委員]：環境整備では、ミリカローデン、公民館など、現在ハード面が多く整備されている。もし課題を出すなら、公民館をどうにかして欲しいとの思いがある。書き方を考えるべき。

[委員]：27頁2) 中学生・高校生向けとなっている。小学生が外されている印象がある。イベントの協働実施という表現にするとよいのではないか。

[委員]：案をもう1回確認する機会はあるのか。

[事務局]：機会はある。

(5) 重点施策について

[会長]：ご意見、ご質問のある方はお願いしたい。

[委員]: 「大人が選んで与えたものではないか」というのは悪いことなのか。子どもが主体的に選んで受け取ることは難しく、大人がきっかけを与えて、そこから広がっていくことが重要ではないか。決めつける言い方はいかがなものか。

[事務局]: 表現を見直す。選択肢を提示する姿を見せる表現がよい。

[委員]: 6章のテーマ1の(1)テーマ設定の理由で「環境を整えたい」とあるが、今の行政職員の思いを投影するものではない。市民の方や団体の方の思いから重点施策を書く必要がある。重点にしないといけない施策であり、テーマ2の、「社会包摂」の視点で学ぶという言い回しには違和感がある。学ぶことと重点施策で目指すことは別ではないか。

[委員]: テーマ1で主な事業内容が至って普通である。子どもが何かを行う内容ではなく、市が何かを与える内容となっている。39頁のテーマ3にある土台となる環境とあるが、土台とは何を指しているのか。土台と環境は同じ意味ではないか。

[事務局]: 表現に関してうまく整理できていないところがある。

[委員]: 先ほどの推進体制の図の話と、プラットフォームという言葉の整理が必要である。

[委員]: 矢印の意味はどうか。

[事務局]: 短期、中長期の意味合い。

[委員]: スケジュールと捉えたが、短期、長期は重点施策以外の項目には設けないのか。

[事務局]: 頁の見え方として、頁数が増える可能性もあるので、すべてにスケジュールを入れるべきか精査する。

[委員]: プラットフォームがどういうものなのか示されているか。具体的にはどういうことか。実行委員会やクラウドシステムのようなものか。

[事務局]: 十分にプラットフォームの形は想定できていないところがある。

[委員]: 今、プラットフォームは無いのか。

[事務局]: 今は無い。現状は単体の団体のみで、それが上手くつながっていくと繋がりができるのではないか。現在は文化同士の関わりが単体である。

[委員]: 現在、繋がっていない状態だが、事例として繋がっている状態は具体的にどういったものか。言葉がイメージのところと、論理的な齟齬が生じているところがある。書かれている言葉は自信を持って言えることが必要。

[委員]: 言葉の使い方がおかしいというより、その言葉で何を伝えようとしているのかが見えてこない。プラットフォームを作って何がしたいかがはっきりしていない。

[委員]: 基盤づくりにしても、どういうことなのか。具体的に定期的に会合を開くのかなど、そこを明確にする必要がある。

[委員]: プラットフォームは横並びのイメージがある。市も市民も横に並んで

いる中で、土台という言葉は、上下関係をイメージする。

[会 長]：6章については次回も議論することができる。

4. その他

今後の進め方（市文化振興課より説明）

別添説明資料4のとおり

[会 長]：以上をもって第6回那珂川市文化芸術推進審議会を閉会する。